

第 1 部

「インカ道マチュピチュとナスカ地上絵 12 日間」を 5 月 11 日～5 月 22 日に行いました。

世界遺産で人気 No1 のマチュピチュ遺跡へ向うインカ時代の古道 ' インカ道 ' を 3 泊 4 日かけテント泊でトレッキング。その後ペルーの首都リマへ移り、車と飛行機を乗り継いでナスカの地上絵を見学して来ました。

マチュピチュ遺跡は天空都市と言われあたかも高山に有るかの様に思われますが、実はインカ帝国の首都クスコ(3400m)よりも 900m低い標高 2500mのジャングルに有ります。簡単に言えばクスコで高山病にかかってもここへ来れば快方に向かいます。私たちが歩いたコースはアメリカ人を中心にすごい人気で、4200mの峠を越え精密な石組み文化を持つインカ人の造った古道を歩いて来ました。



(サボテン生えるトレック初日 5/14 日)

○帝国の都 クスコ(3400m)

‘おや’ と思うかも知れませんがインカ帝国はこの地で最も新しく、13 世紀頃に起こり、1438 年のパチャクテク即位で国家再編、絶頂期の 1533 年にスペイン人のフランシスコ・ピサロに滅ぼされてしまいます。この帝国の最盛期には 80 の民族と 1,600 万人の人口をかかえ、北はエクアドルからチリ北部、アルゼンチン北西部、コロンビア南部にまで広がっていたとの事。帝国の首都は現在のクスコ、その名前はケチュア語で「へそ」を意味します。勢力を誇ったインカ人は文字を持たず、その滅亡と合わせ哀愁をかき立てます。



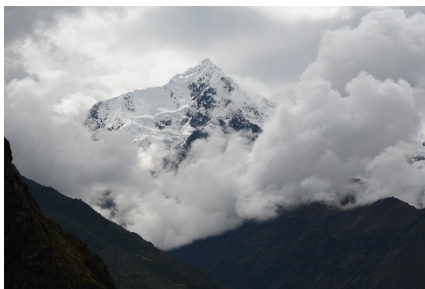
※余談：私達がウルバンバ溪谷へ下る 5/13 日は大規模な労働者の賃上げストライキで過激派が幹線道路を封鎖するなど危険と連絡有。ストに捲込まれない様に早朝午前 3 時にクスコを発って次の宿泊地のオリヤンタイタンボへ。案の定、既に道路は閉鎖、それも巨岩を道路に山と積む前近代的な手法で。何とか迂回路(悪路)を通して目的地へ辿り着きましたがビックリする出来事でした。

○ワイリヤバンバ(入山 1 日目 3000m)

トレックの起点は写真の様に乾燥地帯。サボテンやテキーラの植物が点在し、乾いた風が溪谷を吹き抜けます。歩き始めて 3 時間半、何時もの場所で昼食に。こちらのコックさんはレストランのシェフしながら身なりを整えなければならないそうです。(テントの写真)



(ウルバンバ川 5/14 日)



○パカイマユ(入山 2 日目)

今日はこのルート随一の難関ワルミワニユスカ峠(4215m)越えです。何故難関かと言うと標高 3000mの高所から一気に 1200m登り、そして 700m急坂を下ります。例年ですと 5、6 月は乾季で最高のシーズンですが、今年はクスコ到着時から気温が高く、午後は毎日にわか雨が降る変わりやすい天気。ついていないと言うかこの日が最悪のコンディションでお昼頃から雨がシトシト。こちらが一番恐れるのはこんな天気の歩行で、オーバーペースになる事です。(高山病のリスク大)



(ワルミワニュースカ峠 5/15 日)



○プユパタマルカ(入山 3 日目)

3 日目のポイントはインカ人達が作り上げた石垣の道をトレッキングしました。この日も朝からポツリ、ポツリと雨が降り、口には出せませんが最悪のコンディション。昨日の峠越えから急に緑が多くなり、セカンドパス(3950m)を越えた辺りで周りはジャングルに激変。ワルミワニュースカ峠は日本でいえば谷川連峰みたいなもので、峠の表と裏で気候が全く変わります。点在する遺跡にガスがかかる視界不良の 1 日が終わり、テントをたたき雨音を聞きながら就寝。



(インカ古道 5/16 日)



記 天溪 赤沼

☆補足

マチュピチュ遺跡へ向かうインカ道はペルー文化省により「トレッカー・ポーター・ガイド全て合わせ 1 日 500 人」に厳しく入山規制されています。日本の知名度は低いもののこの古道は世界的に物凄い人気で、今年は 1/8 日の受付開始早々 5, 6 月を中心に申込みが殺到し、私達の入山日 5/14 日は1/12 日に申込終了。来年の受付け開始日は未定ですが、5 月のトレッキングを考えると少なくとも年内の申込準備が必要です。